神奈川県水産技術センター漁海況情報　　【第８１号】

平成３１年１月１７日発行

海況・サバ・イワシ・マアジ長期漁海況予報

平成 30 年 12 月 25 日に平成 30 年度第 2 回太平洋いわし類・マアジ・さば類長期漁海況予報（平成 31 年 1 月～6 月の見通し）が発表されましたので、その結果を基に本県海域での状況を予報します。

■ 海　況

黒　　潮：Ａ型で推移する。
流路は伊豆諸島海域の西側を北上しながら、一時的に東側を北上することがある。
房総沖で一時的に離岸することがある。

沿岸水温：相模湾は概ね「平年並み」で推移し、一時的に流路変動により「低め」及び暖水波及時に「極めて高め」となる。
伊豆諸島北部海域は「平年並」～「高め」で推移し、暖水波及時に「極めて高め」となる。

（語句説明）平年並：平年値±0.5℃程度、
極めて高め：平年値＋2.5℃程度
高め：平年値＋1.5℃程度
低め：平年値－1.5℃程度

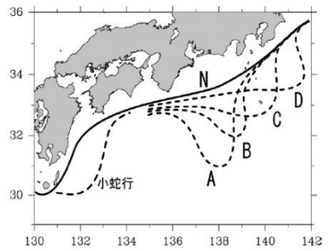

図１　黒潮流型の分類

■ さば類（マサバ、ゴマサバ）

●伊豆諸島海域（たもすくい）

来遊量：前年並。

（説明）マサバ太平洋系群の資源量の増加を受けて、マサバを主体とした好漁が期待されます。漁場は、漁期当初は三宅島周辺に、盛漁期には銭洲周辺にも形成されるでしょう。魚体は、マサバは尾叉長 30～34cm（400g 前後）主体で、ゴマサバは 28～34cm（300g 前後）主体で、前年同様に小ぶりな個体が多くなる見込みです。

●相模湾・東京湾（定置網、釣り）

来遊量：現時点での予測は困難。

（説明）相模湾・東京湾のさば類の来遊量は海況の影響を受けて変動するため、太平洋系群の資源動向とは必ずしも一致せず、現時点での予測は困難です（太平洋系群の資源量が多くても、本県沿岸では獲れない年があります）。なお、平成３１年６月、８月には海況のデータをもとに相模湾・東京湾へのマサバ来遊量を予測する「沿岸さば漁況予報」を公表する予定です。

■ マイワシ

来遊量：低調な前年並。

（説明）マイワシ太平洋系群の資源量は、2010 年以降増加しており、太平洋側各地で漁獲量が増加傾向にあります。

一方、相模湾では資源量が多いはずの明け 1 歳魚が上半期に殆ど来遊しない状況が続いており、大羽イワシも昨年はまとまった来遊がありませんでした。

2019年１月～6月は、一昨年８月下旬からの黒潮大蛇行が継続すると予測されていることから、黒潮からの内側反流にのってマイワシが沖合海域から相模湾に来遊することが期待されます。

なお、０歳魚（2019 年級群）は４月下旬から早期発生群が漁獲されるようになるでしょう。

■ カタクチイワシ

来遊量：低調な前年並。

（説明）カタクチイワシ太平洋系群の資源量は、2004 年以降減少しており、特に黒潮親潮移行域等、沖合域での分布量の減少が顕著になっています。魚体も、高水準期を支えた大型成魚（体長 12cm 以上）の来遊が激減しており、未成魚～小型成魚が主体となってきています。

2019年 1 月～6 月は、前年同様、資源量が少ないことから、５月～６月を盛漁期としながらも全般的には低調な漁模様となるでしょう。

■ マアジ

来遊量：前年を下回る。

（説明）マアジ太平洋系群の資源量は、1997 年以降減少傾向で、相模湾沿岸定置網での漁獲量も 2009 年以降減少傾向となり、近年は低位で減少傾向です。

例年、上半期に相模湾へ来遊するマアジは 1 歳魚が主体となります。東シナ海由来の 2018年級群の来遊はあまり期待できず、また相模湾での 2018年下半期のマアジ０歳魚漁獲量が前年を下回ったことから、2019年 1 月～6 月の漁獲量は前年を下回ると予測されます。